

## 東濃農林事務所の普及活動状況

令和8年1月

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■野菜・きなあた瑞浪出荷者協議会等 アグリパーク重点推進モデル提案書を提出

県が実施する政策オリンピック「アグリパーク重点推進モデル」の提案募集にあたり、農業普及課は昨年10月以降、市やJA、農業者組織等12団体、84名に対し、本事業の周知説明を行うとともに、企画提案に意欲のある団体等からの相談対応を行ってきた。

農業普及課の働きかけに呼応した瑞浪市では、きなあた瑞浪出荷者協議会など市内関係団体を交えて、本事業を活用した地域農業の活性化策を検討することとなった。

瑞浪市の農産物直売所「きなあた瑞浪」では、出荷者の高齢化が進み、販売量の確保が課題となっている。このため、出荷者協議会においては、アグリパークを活用した、新規出荷者の掘り起しから育成までの取り組みを進めたい意向がある。

検討を重ねた結果、瑞浪市、瑞浪市農業委員会、JAとうと、きなあた瑞浪及び出荷者協議会で構成する実行委員会を立ち上げ、農業への参入希望者の相談窓口とスタートアップの場を整備していくこととなり、アグリパーク重点推進モデル提案書を1月30日に提出した。

農業普及課は、農業を体験、実践することができるスタートアップの場の設置やその運営を支援し、新たな生産者の育成に取り組んでいく。



【検討状況】

#### ■認定新規就農者 認定新規就農者の経営改善支援

12月22日、岐阜県シンクタンク庁舎で、新規就農者の経営改善支援会議が開催され、管内からは、令和4年に多治見市で青年等就農計画の認定を受けて就農したA氏が参加した。

A氏は稲作経営を行っており、就農時は約5haの規模であったが、現在は作業受託を含め40haまで拡大している。また、収穫した米の学校給食への提供や、稲WCSの生産及び堆肥の利用といった耕畜連携にも取り組み、地域の新たな担い手として大きな期待が寄せられている。

農業普及課は、新しい設備の導入、単収向上への取り組みや農地集積による規模拡大に向けて、経営計画の作成支援や、栽培技術の助言を行った。また、中小企業診断士等の専門家と経営改善計画の内容について意見交換し、投資コストの削減など経営計画の見直しについてアドバイスを受けた。A氏は、経営面積100haを目指し、技術向上と規模拡大を進めたい意向を持っている。

農業普及課は、認定新規就農者の栽培技術及び経営管理の指導を行い、地域を支える担い手の育成に取り組んでいく。



【経営改善支援会議の様子】